

予知保全をこれ一つで簡単に

Connection Module IoT

モーターに取り付けるだけで、保全に必要なデータ収集を実現

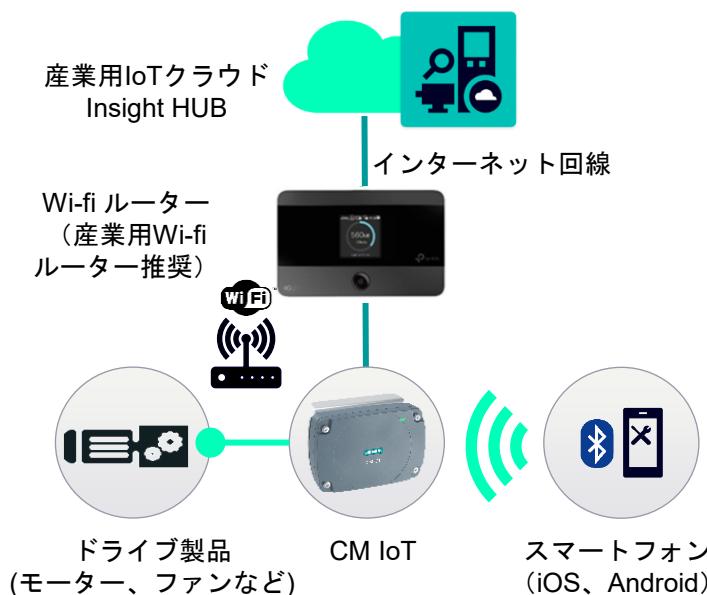
生産工場では非常に多くのモーター設備が稼働しています。将来の設備保全のためには、すべてのモーターの稼働状況など予知保全に関連するデータ収集を行う必要があります。

Connection Module IoT (CM IoT)は無線型のコンディションモニタリングシステムで、3軸の加速度センサー、温度センサー、モーター、回転磁界の検出センサー(モーター回転速度や起動回数検知)をパッケージングした機器です。

データはインターネット回線を介して直接クラウドに送信できます

取り付けをした初日からすぐにダッシュボードでデーター閲覧・解析を始める事が可能です。

Wi-Fi環境とスマホで誰でも簡単設定、専用クラウドアプリでデータを一元管理



- 用意するのはインターネット回線とルーターのみ
CM IoTが無線接続できるインターネット環境をご準備頂くだけですぐにデータを収集できます。初期のセットアップもスマホで設定可能です。
- クラウド上の専用アプリでデータ監視
シーメンスで用意しているクラウド上のアプリケーションを使用することでシステム構築までの時間とコストを大幅に削減します。
- ランニングコストの低減を実現
クラウドアプリはCM IoT 1台当たり安価な年間定額料金でご使用いただけます。

SIEMENS

現場への導入から接続、監視・分析までを一貫してサポート

現場

モーター、インバーター、ギア、ボックス、およびアプリケーション本体(ポンプ、ファンなど)に簡単に取付け



接続性

無線機器による簡単な導入で
ドライブトレインアセットを
クラウドに迅速かつ容易に
接続可能



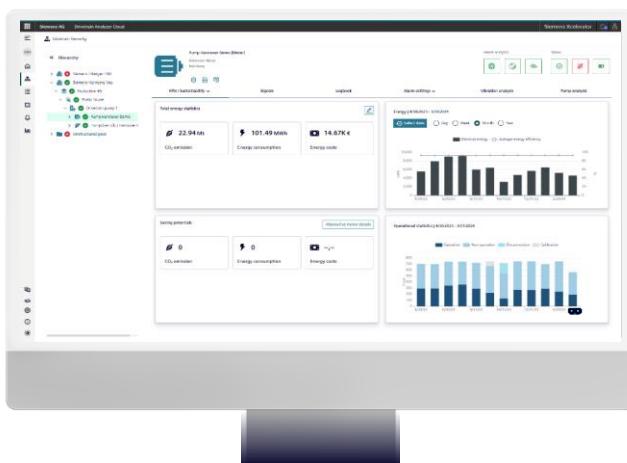
Connection Module IoT
Siemens Xcelerator

監視・分析

クラウドのアプリケーション
上で、ドライブトレインの
分析を簡単かつ安全に実施
カスタマイズ表示も可能



クラウドアプリケーションによる可視化・予知保全

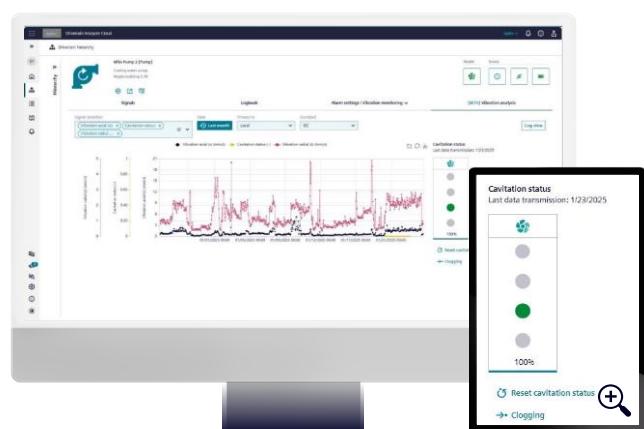


プラント全体からセンサーまで可視化

- 工場レベルから機械、ドライブトレイン、モーター／ドライブ、そしてセンサーレベルまでの詳細を確認することができます。
- 運転状況・稼働時間・起動回数からエネルギー使用状況、CO₂排出量の把握もできます。
- 活用事例として、ポンプ等の効率管理や故障履歴の記録管理、IGBTの劣化監視なども可能です。

状態分析・不具合予測による予知保全

- トレンド監視や、各KPI毎に指標を決めて監視が可能です。
- 閾値を決めてアラームのメール発信など設定変更が柔軟にできます。
- アプリにはCopilotを搭載しており、取得データを用いた考察が可能です。



シーメンス株式会社

<https://www.siemens.com/jp>

製品およびサービスサポートの詳細や
お問い合わせ先は、製品・サービス
ポータルサイト SiePortal をご覧下さい。

SiePortal

検索

<https://sieportal.siemens.com/ja-jp>